

2019（平成 31）年度 事業計画書

学校法人 学 習 院

はじめに

学校法人学習院は、2017年度から2021年度の5か年を実施期間とする中期計画として『学習院未来計画 2021』を策定し、全体目標として、

- I 学習院の歴史と時代の要請を踏まえた教育改革
- II 学習院の総合力を発揮するための学校間連携の強化
- III 教育の質をたゆみなく向上させるための環境整備

の3つを掲げ、その下に院内各学校と法人本部等がそれぞれの目標を定めました。

2019年度は『学習院未来計画 2021』の中間年に当たります。事業計画書は『学習院未来計画 2021』との連動性を踏まえ、院内各学校と法人本部等がそれぞれ中期計画の目標の達成に向けて、2019年度に取り組む内容を取りまとめたものとなっています。

18歳人口の減少、AIなど技術革新の急速かつ継続的な変化、グローバル化、環境問題や、国連が提唱する持続可能な開発のための目標（SDGs）の推進など社会を取り巻く状況や環境は著しく変化しています。そうした社会的課題に対応していくために、高等教育をはじめとする教育機関に対しては、知識の共通基盤として社会を支えること、社会が必要とする人材を養成することが求められています。そのような状況の中で、一貫教育の強みを発揮しながら、各学校はそれぞれの取組みを着実に進め、未来計画 2021 の目標達成に向け、「勢いのある学習院」としてますます発展するために、各計画の実現に向けて全力を注いでいきます。

2019年度事業計画書の主なポイントは、次のとおりです。

大学は、入試改革や高等教育無償化等に的確に対応しながら、特色を生かした教育・研究を実施するとともに、就職や奨学金など学生支援や環境整備等を着実に推進していきます。

女子大学は、2018年度に開学20周年の節目を迎えましたが、引き続き、「日本を学ぶ、世界を知る、英語で伝える」の教育を実践していきます。2018年度に新たに設置した教職課程を着実に進めるとともに、内部質保証のための体制強化を図っていきます。

高等科・中等科、女子中・高等科では、新しい学習指導要領に対応したカリキュラム改訂と海外協定校との海外留学の促進や院内各学校との連携を図っていきます。

初等科では、新しい学習指導要領に対応したカリキュラム改訂と、海外研修実施のための準備を進めていきます。

幼稚園では、2018年度に実施された新しい教育要領を踏まえた教育内容の充実と、遊びの生活の中に、四季の移ろいを感じることでできる教育環境の整備を引き続き図っていきます。

1. ファカルティ・ディベロップメント (FD)、スタッフ・ディベロップメント (SD) の推進

【学習院未来計画 2021】 1. 教育支援の充実

【学習院未来計画 2021】 11. スタッフ・ディベロップメント (SD) の推進

「学生による授業評価アンケート」、同アンケート結果を活用した「FD¹ 研究会」「授業見学・聴講」を引き続き実施し、教育・学修効果の向上への取組みを推進します。「学生による授業評価アンケート」については、授業への取組み例等を織り交ぜた報告書を毎年度ホームページで公開しています。

2019 年度は、「学生による授業評価アンケート」や各種分析を踏まえた FD の改善検討を行います。

また、本学独自の SD² 活動に加え、甲南大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、学習院女子大学との六大学合同 FD・SD 研修会において、共通のテーマについてワークショップ等による意見交換を行い、教職員の資質向上を図ります。

2. ラーニング・サポート体制の充実

【学習院未来計画 2021】 1. 教育支援の充実

開設 4 年目を迎えるラーニング・サポートセンターは、英文を含む論文・レポートのライティングサポート、プレゼンテーションサポート、自習などにより多くの学生に活用されています。

ノートの取り方、レポートの書き方、英文の読み方、プレゼンテーション（資料の作り方、発表リハーサル等）、書籍の読み方に関するセミナー（いわゆる聞く・書く・話す・読むの 4 技能に関するセミナー）を開催し、学生のニーズに即したサポートを充実させ、利用学生数の更なる増加を図ります。

また、G-Port³ やラーニング・ポートフォリオシステムの更なる活用により、修学支援の充実を図り、並行して学内の Wi-Fi 環境の整備を進めます。

3. 総合基礎科目見直しの検討

【学習院未来計画 2021】 2. 語学教育を含む教養教育の見直し・再編

学習院大学ブランディング事業「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型〈生命社会学〉によるアプローチ～」で創設した学問領域「生命社会学」を、全学部・全学年対象の基礎教養科目として 2019 年度も開講し、文理融合型の人材育成を推進します。

また、基礎教養科目、情報科目、スポーツ・健康科学科目、外国語科目の総合基礎科目について、見直し検討委員会における議論を継続し、特に英語科目について優先的に改革の方向性を示していきます。

¹ ファカルティ・ディベロップメント 大学の授業改革のための組織的な取組み。

² スタッフ・ディベロップメント 事務職員や技術職員など職員（教員を含む）を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組み。

³ 授業教室や、休講・補講などに関する情報を通知する大学ポータルサイト。

4. 入学者選抜制度の改革等

【学習院未来計画 2021】 3. 入試改革

2019年度入試制度開発設計委員会では、2018年度同委員会の「第1回中間答申（「学ぶ態度」の評価と英語科目試験について）」、「第2回中間答申（「共通テスト利用の判断にあたって留意すべき事項）」等をもとに、2020年度（2021年度入学者選抜）以降の高大接続システム改革を見据え、受験生にとって利便性が高く、多様な入学者を選抜できる入試制度の開発を継続していきます。

5. 世界展開力の強化とサーティフィケートプログラムの調査・検討

【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進

海外研修で得ることのできる知識、方法、視野等を教育課程の一環としてパッケージした「国際環境学」「国際日本アジア学」「国際日本語教育」の3つのサーティフィケートプログラム（履修証明書発行プログラム）について、引き続き調査・検討を進めます。

6. 国際センター組織の強化

【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進

2019年度は、学習院大学の国際化指針（グローバル化対応ポリシー）の数値目標達成年度であり、2018年度に「国際交流センター」と「国際研究教育機構」とを統合した「国際センター」の企画力及び機動力を充実させ、全学的な連携のもと、目標達成に向け、グローバル化を更に推進します。

7. キャリア教育と就職活動支援の連携

【学習院未来計画 2021】 5. 学生生活支援の充実

キャリアセンターは、卒業後のキャリアも視野に入れ、教育・就職活動支援の両面から多様な支援プログラムを引き続き提供していきます。

教育面では、全学部横断の総合基礎科目「キャリアデザイン」との連携を強め、質の向上を目指します。

また、就職支援面では、今後、就職環境の変化が予想される中、社会や学生のニーズに対応したプログラムを継続的に実施していきます。具体的には、実践型のアクティブ・ラーニング⁴方式のキャリアセンター講座をベースに、卒業生とともに運営する講座を引き続き行います。更に、国際社会科学部学生のキャリア支援については、2020年3月に第一期生を輩出するにあたり、教員とキャリアセンターが連携した同学部に対する重点的な支援を強化していきます。



面接対策セミナー

⁴ 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法。

8. 奨学金の拡充と検証

【学習院未来計画 2021】 5. 学生生活支援の充実

2020年4月からスタートする高等教育無償化⁵の対象となる大学の要件整備を図ります。また、定着しつつある入学前予約型奨学金の「目白の杜奨学金」等については、過去の申請傾向に鑑み、本学志望度が高い優秀な学生の更なる確保を目指して、2018年度に申請要件の緩和を行った結果、徐々にその成果が現れています。2019年度以降も申請傾向を分析し、他大学の動向や社会情勢を見極めたうえで、必要に応じて柔軟な対応を行います。並行して、大学院生を含む在学生対象の奨学金についても一層の充実を図るべく検討を進めます。

9. 教学マネジメントの確立と IR 機能の充実

【学習院未来計画 2021】 6. 教学マネジメントの強化

見直しを実施した学部・研究科の3ポリシー（ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針））に基づく教育の実施について、内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織である内部質保証委員会が各学部・研究科におけるPDCAサイクルを有効に機能させることにより、教育課程及びその内容、方法の改善・向上に結び付けていきます。

IR⁶ オフィスでは、「在学生調査」及び「卒業生調査」を引き続き実施し、調査結果の可視化を通じて、全学的な教学改善の取組みを支援します。また、他部門との連携やIRニーズの汲み上げを強化し、より広範なデータの活用を提案します。

10. 事務組織の見直し

【学習院未来計画 2021】 6. 教学マネジメントの強化

教育研究の高度化・複雑化や業務の多様化等に対応するため、事務組織の業務の検証を行い、必要に応じて業務の見直しや各部署間の業務移管、事務組織の再編成を検討し、法人との協議を進め、2020年度以降の改編を目指します。

11. 「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ～」の推進

【学習院未来計画 2021】 7. 研究活動の活性化

「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ～」は、5年計画の4年目に入り、3年間の基礎研究の成果を踏まえ、生命科学分野については、引き続きビジビリティ（可視性）の高い基礎研究を継続的に推進します。また、その時点で議論すべき恩恵と社会的問題について、更なる超高齢社会の近未来に対応可能とするためにどのような方策が必要か、文理連携の統合的な議論を継続するとともに、公開講演会で一般の方との意見交換も行います。

⁵ 2020年4月から低所得者を対象とした高等教育無償化制度が実施される。支援措置の対象となる大学には一定の要件が課される。

⁶ Institutional Research の略。大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

12. 地域連携の拡充

【学習院未来計画 2021】 8. 地域連携の拡充

豊島区とは、「としまコミュニティ大学」への科目の提供、豊島区在住の外国人を対象とした「日本語教室」の開催をはじめ、東アジア文化都市や国際アート・カルチャー都市構想の取組みに対して協力していきます。

東アジア学の研究拠点である東洋文化研究所の利用をはじめ、一般を対象とした公開講座や講演会などを開催し、大学が有する知の社会への還元を行います。

目白キャンパスで実施される豊島区立目白小学校 1 年生の生活科の授業に対して、文学部教育学科の生活科教育法の授業で支援を継続して実施します。

また、豊島区の子どもたちが馬と触れ合う機会（ホースセラピー）を設けたり、豊島区立千登世橋中学校の生徒の職業体験を受け入れたりするなど、「社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、地域連携を推進していきます。

13. 産学官連携の推進

【学習院未来計画 2021】 9. 産学官連携の拡充

産学官連携については、学長室研究支援センターが中心となって、URA⁷ による研究成果・研究シーズに関する情報発信や、知的財産の活用推進等の活動を進めています。

外部資金獲得等の研究成果の創出から、研究成果と企業を結ぶ共同研究の実施、及び共同研究成果の知的財産化まで、一連の活動を進めていく仕組みを構築していきます。

また、文系の事例も含めて本学の多様な研究成果を活用し、講演会開催や学外機関等への専門指導のような広義の産学官連携（社会連携）活動に繋げることも推進します。

自然科学研究科では、基礎物性研究センターにおいてエネルギーを効率的に利用するための基盤技術の開発を目的とした「効率的なエネルギー利用のための新規機能性材料の創製」について、外部資金の獲得を含め、研究テーマや研究内容の具体化を推進します。

14. 学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化

【学習院未来計画 2021】 10. 高大接続改革の推進

高等科・女子高等科とは、高大接続改革において今後想定される課題について、共通の認識のうえに懇談する場を設け、継続的に意見交換を行っていきます。

出張講義や授業聴講、科目等履修生制度などによる両高等科との連携強化を図るとともに、協定締結校との合同研修会の開催等に努め、すでに協定を締結している東京都立戸山高等学校、私立順天高等学校に加え、2019 年度からは初代学長（18 代院長）安倍能成の出身校である愛媛県立松山東高等学校と協定に基づく新たな連携を開始します。

15. 中長期計画の策定

学習院創立 150 周年（2027 年）、学習院大学創立 90 周年（2039 年）を展望し、本学の理念・目的を実現するために、世界的規模で激しく変化する社会状況を考慮しながら、大学

⁷ University Research Administrator の略。大学等において、研究者とともに、研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。

として将来を見据えた中長期計画の策定に着手します。なお、法人と協議を進め、大学の組織・財政基盤を踏まえた自律的活動を担保しうる内容となるよう努めます。

2019年度は若手の教職員を中心とする中長期計画策定作業部会において中長期計画案を作成し、2020年度に基本計画策定委員会において中長期計画を策定します。

女子大学

1. 内部質保証体制の強化

【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

内部質保証のシステムを更に有効に機能させるとともに、システム自体の適切性を客観的に評価する目的で、外部評価を導入することを2018年度に機関決定しました。2019年度は、その実施時期や実施方法の詳細について検討します。これにより本学のPDCAサイクルの客観性をより堅牢にし、内部質保証体制の更なる充実を図ります。

2. コース登録制度の運営初年度に向けたカリキュラムの一層の充実

【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

2018年度入学者より日本文化学科と国際コミュニケーション学科において導入したコース登録制度⁸については、1～2年生における幅広い学問分野の学修を踏まえて、3年次からは専門性を追求することで体系的な学びにつなげます。その体系性を更に実質的かつ効果的にする目的で履修規定を見直します。また2019年度入学者からは、1セメスターにおける履修単位の上限を緩和することによりコース登録前に「多様な科目に会う」機会を増加させます。更に、学科横断的な教育プログラムの検討を引き続き行います。これらは本学が標榜するリベラルアーツ教育の更なる強化に向けた改革の一環として推進していきます。

3. リベラルアーツ教育に即した学修成果の総合的把握・可視化に向けた取組み

【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

学修成果の総合的な把握と可視化の方法についてルーブリック⁹の開発等も含めて検討し、本学で実行可能な方法を立案します。

4. 国際化中期計画の着実な推進

【学習院未来計画 2021】 2. 国際化の一層の推進

学内の国際化、海外留学の促進など7項目からなる「国際化中期計画」（2016～2020年）を着実に推進します。そのために、新たな内部質保証システムの下で各年度の進捗と課題を的確に把握したうえで、適切な対応を図っていきます。

⁸ 1～2年生は、幅広い学問分野に関する基礎的な科目を履修し、研究方法、語学力等を養い、それを踏まえ3年生からは学生が自ら見出した学問的関心に応じた専門領域としての「コース」を選択し、その分野の専門性に沿った学びを進めます。

⁹ 米国で開発された学習評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。評価者・被評価者の認識の共有・複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。

5. 留学生の派遣と受入れに関する一層の強化

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

派遣と受入れを「車の両輪」ととらえ、一体的に強化、推進していきます。派遣についてはアンケート調査により学生が留学に対して有している懸念や課題を適切に把握したうえでその解消に努めるとともに、派遣先大学の語学基準への早期達成を支援するため、各種の語学能力試験の受験助成を行うなどの取組みを総合的に展開します。受入れについては、新たな奨学金制度を導入するとともに、協定校との協議を緊密に図ります。また、2018年度に作成した本学教員の執筆による「現代日本に関する英語によるテキスト」も活用して、受入留学生に対する本学の重層的な教育を推進します。

6. エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

3年生の学生に、TOEIC® OLPC¹⁰ プログラムを受講させることにより、本学学生の全体的な英語スキルの向上を目指します。更に、語学教育センター等によるきめ細かい英語力習得支援を一層強化します。これらにより、「国際社会で活躍できる学生を育成する大学」を強く打ち出します。

7. 「海外」に触れる機会の更なる確保

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

長期の留学に加えて、学生が海外に触れる機会の一層の充実を図ります。短期語学研修先として、試行的に韓国を追加するとともに、途上国研修や国際機関研修などの本学ならではの多彩な短期海外研修プログラムへの学生の積極的な参加を促します。

また、レスブリッジ大学とのオンラインによる同時授業や、国際機関からの実務家による Skype¹¹ 授業などキャンパス内で海外に触れる取組みも継続していきます。



イギリス語学研修

8. 入試制度改革

【学習院未来計画 2021】3. 高大接続改革に伴う入試改革

2021年度入試からの入試制度改革の内容について、本学の教育の理念とのつながりに焦点をあてて、対外的にわかりやすく説明していきます。

9. 高等学校との交流連携に関する検討

【学習院未来計画 2021】3. 高大接続改革に伴う入試改革

高大接続改革の一環として、高等学校との連携のあり方について検討に着手します。教育に対するアプローチにおいて本学のリベラルアーツ教育と親和性の高い高等学校との連携を試行的に模索し、その有効性を検証していきます。

¹⁰ TOEIC® Official Learning and Preparation Course TOEIC テストを作成・監修している ETS が公認する世界で唯一のオンライン学習システム。

¹¹ マイクロソフトが提供するインターネット電話サービス。

10. FD・SDの推進

【学習院未来計画 2021】4. 企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント (SD)の推進
ファカルティ・ディベロップメント委員会のもと、組織的かつ継続的な取組みを推進します。2019年度は本学の特性を活かして、年に複数回のFD・SD合同研修を計画します。

11. 分析力強化のための体制整備

【学習院未来計画 2021】4. 企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント (SD)の推進
学内外の情報を収集・分析し、大学運営に役立て、分析力の強化を図るため、IR業務担当職員の技術力向上のための研修機会を増やすとともに、担当以外の職員のIRに対する見識を深める啓発活動を実施します。

12. 研究・教育環境の向上

【学習院未来計画 2021】5. 研究・教育環境の向上

『学習院未来計画 2021』のキャンパスプランに基づき、4号館耐震改修工事による安全性の確保と文化的価値の保全・活用を図ります。2019年度は4号館機能を仮設建物へ移転するとともに、新たに設置する展示室も含めて、改修に係る詳細計画の策定を行います。また、教育・研究環境の更なる向上を図るための1号館新築工事については、2020年度の完成を目途に、実施設計を経て工事に着手します。

学生に対する教育支援の一層の拡充を図るため、ラーニングコモンズ¹²をはじめ図書館の利便性を向上させます。

ラーニングサポートルームでは、本学の学生のニーズに即した学修支援を充実させるべく、運営方法を見直し、逐次のミニ講座やグループスタディを取り入れます。また学年や属性に応じたサポートの在り方を工夫し、エンrollmentマネジメント¹³に資するよう活用します。

また、正門から2号館に続く通路脇の桜再生計画については、2019年度は桜木の生育状況を確認しつつ、2021年度に予定している第二期工事に繋げていきます。

そのほか研究面では、科学研究費補助金等の外部資金の獲得や、研究成果の発信、社会への還元を促進するための具体的な検討を行います。

13. 外部に開かれた文化活動の充実

【学習院未来計画 2021】6. 外部に開かれた文化活動の充実

2018年度に調印した新宿区との包括連携の具体的な交流分野や提供プログラムについて、実施の可能性を行政側と協議します。また、本学の有する教育研究資源をより積極的に活用するために、個々の教員の社会貢献活動を可視化するとともに、新宿区以外の地域との連携の可能性についても模索していきます。

様々な展示活動を通じて教育研究活動を活性化させるとともに、その成果を発信する「文化交流ギャラリー」における展示の充実を図っていきます。

¹² 図書館などに設けられる、総合的な自主学習のための環境。IT機器や学習スペースなどを備え、書籍の閲覧だけではなく、グループ学習や討論会など様々な学習形態の活用に対応する。

¹³ 大学における学生支援の取組みの一つで、大学全体で各個人を学力・就職・生活などの面からサポートするもの。

環境教育センターにおいては、これまで蓄積した多角的な知見について、ホームページを利用して学外に発信するとともに、エコサイエンス教室の拡充方法を検討します。

また、2018年度に策定した「東京オリンピック・パラリンピックのボランティア参加に対する基本方針」に基づき、学生にボランティアへの参加を積極的に働きかけていきます。

高等科・中等科

1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討

【学習院未来計画 2021】1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

新たな学習指導要領¹⁴に対応し、2021年度の高等科学則改正を目的に、各教科ごとの検討を進め、改訂案を作成します。英語教育については、GTECを受験する学年の範囲を広げ、過去の結果と比較分析して教育内容の現状並びに成果に関する分析を行い、中等科・高等科の一貫教育体制の中での充実を図ります。

ICT教育については、高等科を対象に、AIによる音声・画像認識技術を利用した英語スピーキング・ライティング評価・採点システムを導入し、英語の話す力と書く力の更なる向上を目指します。

2. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】2. 院内各校との連携強化

大学・女子高等科とは、高大接続改革において今後想定される課題について懇談する場を設け、継続的に意見交換を行うことで、認識を共有していきます。

大学とは、出張講義・授業聴講、科目等履修生制度、女子大学とは科目等履修生制度による連携を図っていきます。また、大学理学部の様々な分野の研究室体験、大学史料館による博物館教育など多様な連携を推進します。

初等科・幼稚園とは、異文化体験の機会としての留学生あるいは留学経験者による訪問を継続します。

また、クラス単位や希望者に対する卒業生による体験授業を増やし、大規模な講演会では得られない成果を生み出す機会を設けていきます。

留学、海外大学への進学相談、サポート等について、大学の国際センターとの連携、活用について協議・検討を図っていきます。

教員間の連携については、学習院としての一貫した教育内容や教育方法の確立を目指し、教科連絡会などにおいて意見交換、情報交換を行います。

3. 教職員の連携と協力体制の構築、業務の負担軽減

【学習院未来計画 2021】3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討

教育の質の向上と業務負担軽減に向け、適正な授業コマ数と教員配置、勤務体系の整備や教員間、関係部署との協力体制を検討します。特に増大する部活動関連の業務負担への対応として、部活動指導に関する外部人材の活用を含めた課題の検討を進めます。

¹⁴ 文部科学省が告示する初等教育及び中等教育における教育課程の基準。2017年3月に改訂され、小学校は2020年度、中学校は2021年、高等学校は2022年度から全面实施。

また、生徒や保護者の心のケアを図るため、関係部署と相談しながら、カウンセリング機会の充実についての検討を進めます。

4. 国際化の一層の推進

【学習院未来計画 2021】4. 国際化の一層の推進

高等科からは毎年 20 名前後の生徒が長期留学しており、引き続き、生徒への情報提供や事例紹介等を行っていきます。

現在、高等科として参加している米国（ハワイ）プナホウスクールでの SGLI プログラムについて、中学生を対象としたプログラムへの中等科の参加を検討します。



更に、中等科も含め、生徒の研修や留学のみならず、米国セントポール校（協定校）、ニュージーランドキングズカレッジ校との教員交換事業を行い、両校との交流をより充実したものにしていきます。

ニュージーランド短期研修

帰国子弟入試で優秀な人材を確保するために、海外子女教育振興財団のヨーロッパ・アジア・北米のツアーに参加し、中等科の学校説明会を単独で開催するなど、短期間に集中して数か国での説明会を行うメリットを最大限に生かした国際広報を継続して実施します。

5. 施設の拡充

老朽化した第一体育館、第二体育館について、夏季の熱中症への対応も考慮し、冷房装置の早期の整備を協議・検討します。また、建物自体の建替えも、長期的に視野に入れ、検討を進めていきます。

女子中・高等科

1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討

【学習院未来計画 2021】1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

新たな学習指導要領に対応し、円滑な実施を図るため、分割授業やティームティーチング、習熟度授業、アクティブ・ラーニングなどについて更に検討を進めます。

「本物に触れること」を重視した理科の授業では、実験や観察について USB シリアル変換キットでデータを取り込むことにより、ICT を活用した新しい実験環境を整備します。また、生徒用に導入した iPad は特定の教室での授業に活用するとともに、電子黒板の機能を有するプロジェクターを整備することにより、一般教室と各情報機器との親和性の向上を図ります。

教員の研修を積極的に行い、各教科ごとのノウハウを蓄積させ、アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的に学ぶ力をより一層伸ばします。

2. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】 2. 院内各校との連携強化

大学・高等科とは、高大接続改革において今後想定される課題について、共通の認識のうえに懇談する場を設け、継続的に意見交換を行います。

大学・女子大学とは、出張講義・授業聴講・科目等履修生制度など多様な連携を図っていきます。

また、初等科・幼稚園への異文化体験の機会としての留学生あるいは留学経験者による訪問を継続します。

教員間の連携については、学習院としての一貫した教育内容や教育方法の確立を目指し、教科連絡会などにおいて意見交換、情報交換を行います。

3. 教員の授業コマ数の検討

【学習院未来計画 2021】 3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討

「臨時特別教諭¹⁵」の制度を効率的に活用し、円滑な授業運営を進めます。

また、校務支援システムの活用を図り、教育の質の向上と業務負担軽減を推進します。特に、電算系のサポート体制を強化し、適切なシステム運用を図ります。

4. 広報体制の一層の強化

【学習院未来計画 2021】 4. 広報体制の一層の強化

受験生向けオープンスクールや、保護者向けの学校説明会などの入試広報機会の充実を図ります。また、広報体制の強化を図るため、将来的には広報課の設置を含めた検討を進めます。

5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

【学習院未来計画 2021】 5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

カウンセラーによる生徒や父母保証人との面談の機会の充実を図り、からだ・心の両面からのケアを深めます。その際、一貫した対応ができるようスタッフの勤務体制を整備し、より相談しやすい環境の整備に努めます。

カフェテリアについては、学内に委員会を設け、2020年度の設置を目途に、他校の調査等を踏まえ、規模等の検討を進めます。

6. 本館の環境整備

ルーフテラスへのベンチの設置や中庭への植栽など、憩いの空間となるような環境整備を進めていきます。

また、戸山キャンパスの緑地化についても整備計画を策定し、快適な就学環境の充実を図ります。



本館 中庭

¹⁵ 教員が退職又は休業等を取得したことにより欠員が生じた場合、その代替要員として期間を定めて任用し、専任教員に準ずる職務に従事する教員。

初 等 科

1. 国際化の一層の推進

【学習院未来計画 2021】 1. 学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂

【学習院未来計画 2021】 2. 国際化の一層の推進

英語教育については、4年生以上にコミュニケーション能力の向上と国際社会の形成者としての自覚を育てる教育を推進し、1クラスを2分割し、少人数による音声訓練を中心に、外国語への無理のない導入を図ります。3年生に対しては、「わかば」の時間に設けていた英語学習を4年生以上と同様に1クラスを2分割し、授業として週に1時間実施しています。

高等科・女子高等科からの留学生の訪問の受入れを引き続き行います。

また、5・6年生を対象とした海外研修の実施に向け、イギリス、オセアニア地域における研修予定先と実施時期について検討していきます。

2. 授業への ICT 機器導入の検討

【学習院未来計画 2021】 3. 授業への ICT 機器導入の検討

ICT 環境の整備については、

- ・ 校内全ての教室に有線 LAN が、本館・西館で無線 LAN 環境が整備されています。
- ・ コンピュータ教室では一人1台のパソコンが配置され、自分のペースでじっくり取り組むことができる体制をとっています。
- ・ 校務用コンピュータとしては専任教員に1台ずつノート型パソコンを配付しています。



コンピュータ教室の様子

このような環境を使い、電子黒板を用いた授業を試みています。また、タブレットを使用した授業の検討を開始します。2019年度は、整備された ICT 環境を活用して有効な学習活動を行うため、教材ソフトや人的配置の充実を図ります。また、ICT 機器によるプログラミング教育と並行して、必要な情報を主体的に収集・判断・処理するための情報教育を行います。

3. 学年主管設置の準備

【学習院未来計画 2021】 4. クラス主管に加えての学年主管の設置

科長及び教頭を補助し、教育指導にあたる教員を配置し、きめ細やかな教育指導体制を構築すべく検討を進めます。

また、スクールカウンセラーについては、1日8時間、週2日の勤務体制とし、児童や父母、教員のカウンセリング機会の充実を図ります。

4. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】 5. 院内各校との連携強化

中等科や女子中等科とは、児童や生徒の情報交換を積極的に行っていきます。また、大

学理学部による「理科」実験体験や、連携事業として女子大学による初等科生と保護者を対象とした環境教育・食育をテーマに、教員の指導のもと学生自ら企画・運営・実施する「エコサイエンス教室」などを継続的に実施します。

また、教員間においても、教科連絡会、各科間の連絡会議を通じて情報共有、意見交換を積極的に行っていきます。

幼稚園

1. 従来の取組みを活かした形での新教育要領への対応

【学習院未来計画 2021】1. 教育要領改訂を見据えた保育内容の充実

かねてより保育の基本としている「正直で思いやりのある心」、「正しい生活の習慣と態度」、「自ら育とうとする力」、「社会性の基礎作り」という人間形成の基礎を遊びを通して身につけることを目指す保育に加え、2018年度から施行されている新教育要領¹⁶を踏まえた自発的・主体的活動を大切にした教育を推進しており、更なる保育内容の充実を図ります。

まめまきやひなまつり、七夕等日本古来の行事に加えて、遠州流茶道宗家による子ども茶会や相撲力士とともに行うおもちつき、落語家による子ども落語など、国際社会に生きる日本人を育成する観点から、その基礎となる本物の日本の伝統文化にふれる保育を充実させていきます。

2. 研究保育と園内外研修の実施

【学習院未来計画 2021】2. 研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上

日常的な事例をテーマとした意見交換の中で、教員間の情報共有と資質の向上を図る研究保育を定期的の実施します。

新教育要領の円滑な実施のための研修をはじめ、保育力の向上に効果的な新たな研修を含めた園外での研修を計画的に受講し、成果を教員間で共有することにより、保育内容の充実を図ります。

3. 園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用

【学習院未来計画 2021】3. 園内の自然環境の充実

土の園庭を活かしながら、四季の移ろいを感じることでできる自然環境は、2017年度より開始した入園希望者を対象とした「園舎見学会」でも高い評価を得ており、更なる自然教育環境の整備に努めていきます。夏の暑さ対策として、張り出し式日よけの整備充実を図ることをはじめ、遊びを重視した教育を行うために重要な安全・安心対策を講じます。

目白キャンパスの恵まれた自然を活用した屋外保育も継続して実施していきます。



庭遊びの様子

¹⁶ 全国的に一定の教育水準を確保するとともに、実質的な教育の機会均等を保障するため、国が学校教育法に基づき定めている大綱的基準。

4. 院内各校との交流

【学習院未来計画 2021】4. 院内各校との連携強化

初等科とは、運動会等の行事の参加・見学、合同主催の父母講座など、一貫教育校ならではの取組みを継続的に実施します。高等科・女子高等科とは留学生との交流を通じた異文化体験の機会なども確保します。

また、教員間においても、連絡会議を通じて、情報共有、意見交換を積極的に行っていきます。

5. 入試広報の充実

2019年度にホームページをリニューアルし、幼稚園における教育方針や生活とあわせて、説明会の開催や募集案内等についても分かりやすく掲載し、発信します。

本 部 等

1. キャンパスプランの策定と実施

【学習院未来計画 2021】1. キャンパスプランの策定と実施

〈第1ステージ〉

① 耐震未対応建物の対策推進について

耐震対策が必要である諸施設について、2018年度は目白キャンパスで東別館の耐震改修工事、新東1号館の建築計画に係る基本設計、戸山キャンパスで女子大学1号館の建築計画に係る基本設計及び実施設計が完了しました。2019年度は以下のとおり対応を進めます。特に、目白キャンパスの新東1号館の建築計画に係る実施設計、戸山キャンパスの女子大学4号館、女子中・高等科B館の耐震改修工事の基本設計及び女子大学1号館の着工にあたっては、各学校との調整を密にして円滑な意思決定ができるように努めてまいります。また、各キャンパスの特定天井耐震対策工事については、2018年度に女子部第2体育館アリーナ（戸山キャンパス）が完了しており、2019年度は、西5号館学生ホール及び幼稚園遊戯室（目白キャンパス）、女子大学2号館やわらぎホール（戸山キャンパス）の施工を実施していきます。

【目白キャンパス】

- 新東1号館の建築計画に係る実施設計
- 北別館の耐震改修工事の実施
- 西5号館学生ホール、幼稚園舎遊戯室の特定天井耐震対策工事の実施

【戸山キャンパス】

- 女子大学4号館、女子中・高等科B館の耐震改修工事の基本設計
- 女子大学1号館の着工
- 女子大学2号館やわらぎホールの特定天井耐震対策工事の実施



目白キャンパス新東1号館
完成イメージ図



戸山キャンパス女子大学1号館
完成イメージ図

② 目白キャンパス・戸山キャンパス桜再生計画

目白キャンパスについては、2017年度に正門・記念会館付近、西門付近の樹木診断・治療を実施し、大規模植替えを行いました。次の大規模植替えは平成2022年度を予定しており、2019年度は外観診断、剪定等を実施することにより景観の維持を図ります。

戸山キャンパスについては、複数年に跨る段階的な整備を計画しており、2016年度に第一期工事として、正門から女子大学2号館に続く通路脇の植替えを行いました。2019年度については、桜木の生育状況を確認しつつ、2021年度に予定する第二期工事に繋げていきます。

2. 決裁・稟議等のルールの整理

【学習院未来計画2021】2. 決裁・稟議等のルールの整理（総合企画部）

文書の適正化処理と事務能率の向上を図るため、2018年度には法人各部に加え、各学校の事務担当者へ現状や課題についてのヒアリングを実施し、文書取扱いに関するルール案を作成しました。2019年度は、ルール案について、関係部署との調整を図り、改正に向けた支援を行います。

3. 広報の充実

【学習院未来計画2021】3. 広報の充実（総合企画部）

2019年度から3年計画で高等科から幼稚園までのホームページをリニューアルするとともに、スマートフォン等でも最適な表示ができるようレスポンシブ化を行います。各種情報へのアクセスがしやすく、学校のイメージが伝わるなど、見る人に分かりやすいホームページを制作していきます。

ここ数年、園舎見学会、体験型オープンスクール、クラブ見学・体験会、イブニング学校説明会、地方でのワンデーキャンパスなど、院内各学校において、様々な形で受験生やその父母、教員、塾関係者などと接点を持つ機会を増やしてきました。これらを継続して実施するとともに、来場者の反応や意見等を踏まえ、工夫・改善を行っていきます。

4. 三推進（国際化、情報化、一貫教育）事業の更なる促進のための検討

（総合企画部）

グローバル化や技術革新が進展する現在において、国際化、情報化への多様性等への更なる対応や、学習院校規に定める一貫教育の推進は喫緊かつ重要な課題です。学校法人学習院の各学校の教育研究機能を向上させるために、三推進事業予算の適切かつ効率的な資源配分のあり方等の検討を開始します。

5. 各学校の教育・研究環境の整備

（総合企画部）

教育の情報化の一環として、2019年4月には目白キャンパス西5号館にWi-Fiを追加整備し、アクティブ・ラーニングへの活用など学生の能動的な学修環境を向上させます。

また、学習院大学・学習院女子大学の学生の安全性・利便性に配慮した住環境の提供を図るため、株式会社学習院蓼々会と連携し、新たに学習院指定寮千川学生会館への入居を開

始します。

6. 事務業務システムの安定運用

【学習院未来計画 2021】 4. 事務業務システムの更新（総務部）

2016 年度より開始した学校向け事務業務パッケージソフトの導入については、2018 年度をもってほぼ全ての業務システムの移行が完了しました。各業務システムの本運用を開始したことに伴い、今後は長期的なシステムの安定運用に向け、システム基盤環境の見直しを計画しています。なお、2020 年度に予定している事務部門のコンピュータ環境の入替え更新に向けて、2019 年度は、システム基盤環境構成の検討や各種仕様の策定等を進めます。

7. 災害発生時の地域との連携、危機管理体制の強化

【学習院未来計画 2021】 5. 災害対策の更なる強化（総務部）

2018 年度は豊島区との通信訓練や帰宅困難者対策訓練等に積極的に参加し、発災時の自治体の対応状況を確認することに努めてきたほか、目白地区マンホールトイレの整備や防災訓練では教職員向けに備蓄倉庫の確認ツアーを行う等の啓蒙活動を行いました。

2019 年度は「学習院防災計画（2017～2019）」の最終年度であり、各学校における防災計画の達成状況を確認し、未達成部分についての検証を行います。また、法人内の危機管理について、総合企画部と共に基本方針・規程等を整備し、危機管理体制の強化に努めます。

8. 創立 150 周年に向けた諸計画の始動

（総務部）

2027 年の学習院創立 150 周年に向けて、さらに勢いを加速するため、社会状況や財政状況の変化を勘案しながら、創立 150 周年記念事業の企画・立案と各学校・各部署との調整を図るための体制整備等に着手します。

9. 受動喫煙防止対策の実施

（総務部）

2018 年 7 月に、望まない受動喫煙の防止を目的とする「健康増進法の一部を改正する法律」及び「東京都受動喫煙防止条例」が公布され、学校については原則として敷地内禁煙（ただし、大学・女子大学については、屋外の喫煙場所のみ設置可の予定）となります。これを受け、「健康増進法の一部を改正する法律」のうち、学校等の特定施設に関わる事項が施行される 2019 年 7 月 1 日を目途に、順次室内での喫煙は全面的に禁止とし、大学・女子大学以外の学校に設置されている屋外喫煙場所はすべて廃止します。

10. 職員研修の更なる充実

【学習院未来計画 2021】 6. 職員研修の更なる充実（人事部）

2018 年度より新たに導入した、短期間かつ本院キャンパス周辺を研修会場とする外部団体主催の SD 研修が、当初予想していた以上に利用希望者が多かったことから、2019 年度は更に参加可能枠を拡大し、これまで業務上時間の制約があり研修に参加できなかった職員にも、学校職員に必要とされるスキルとナレッジを体系的に学べる場を引き続き提供します。

11. 働きやすい環境づくりの推進

【学習院未来計画 2021】7. 働きやすい環境づくりの推進（人事部）

教職員のライフスタイルの変化や多様化に応じて、性別年齢を問わずに働きやすい環境づくりを推進することを目指し、必要とされる諸制度を導入するために、引き続き法令や他校・民間企業の実例について調査・検討を進めるとともに、各学校長並びに各種会議体等での意見交換を通じて、実現可能性のあるものから順次導入します。

12. 効率的な予算配分と財政基盤の安定化

【学習院未来計画 2021】8. 学習院未来計画 2021 の計画実現のための財源確保（財務部）

2019 年度の財務政策としては、既存事業の見直しを行い財源を確保すること（スクラップアンドビルド）を基本とし、今後予定されている教育改革事業や大型の設備投資等、教育研究環境向上の実現に資する新規事業へ積極的に予算配分を行います。

また、大型の設備投資に対応するため、第 2 号基本金組入れ計画の延長や将来的な借入れ計画も検討し、経常収支への影響がないよう資金計画を立案していきます。

13. 各キャンパス構内の維持整備の促進

【学習院未来計画 2021】9. 各キャンパス構内の維持整備の促進（施設部）

各キャンパス構内の維持整備に必要な対策として、各建物の屋外防水工事、外壁改修工事、受変電設備工事等を中長期計画として検討し、順次実施します。

2018 年度に引き続き、外壁改修工事を、以下のとおり実施します。

【目白キャンパス】

- 西 2 号館外壁改修工事（3 年計画の 2 年目）
2019 年度に外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。
- 南 4 号館外壁改修工事（2019 年度）
- 南 6 号館外壁改修工事（2019 年度）
外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。
- 中高等科校舎外壁改修工事（2019 年度より 4 年計画で実施予定）

【戸山キャンパス】

- 女子大 6 号館外壁改修工事（2019 年度）

【四谷キャンパス】

- 初等科本館外壁改修工事（3 年計画の 2 年目）

その他キャンパス維持整備対策として実施する工事は、以下のとおりです。

【目白キャンパス】

- 構内幹線道路舗装改修工事
- 各所外灯・投光器更新（LED 化）
2018 年度に引き続き、目白キャンパス各所の外灯・投光器を LED 照明に更新し、省エネルギー推進を図ります。
- 輔仁会館本館受変電設備更新工事
- 南 4 号館受変電設備更新工事

【戸山キャンパス】

- 女子大3号館受変電設備更新工事
- 幹線ルート構築工事

女子大学4号館、女子中・高等科B館耐震改修前事前工事として、2018年度から引き続き2年計画で幹線ルート構築工事を実施します。

なお、目白キャンパスでは、東1号館建替工事に伴い、南舎宅跡地及び西12号館・西13号館跡地にそれぞれ仮設建物を建設します。2019年5月着工、2020年1月末竣工予定です。また、戸山キャンパスでは、2018年11月より、女子部グラウンド北側に、女子大学4号館、女子中・高等科B館耐震改修工事に伴う仮設建物の建設を進めており、2019年6月末に竣工予定です。

14. 「学習院未来計画 2021」推進募金の更なる充実

【学習院未来計画 2021】10. 学習院未来計画 2021 推進募金の実施（業務戦略渉外部）

業務戦略渉外部では、事業計画期間中の目標額を35億円と定め、毎年の単年度目標額6億円に加え、残りの5億円は新棟建築計画が具体化した段階で目標額に加えることとしていました。2018年10月26日開催の評議員会・理事会において、女子大学1号館並びに大学新東1号館の建築計画に伴う設計案が承認されたことを受け、2019年度は募金目標額を7億円に設定します。

すでに2018年度期中より女子大学1号館、大学新東1号館建設のための募金活動を開始しています。従来からの募金活動に加え、今後は新棟建築のための募金活動にも注力し、2019年度募金目標額到達に向けて、鋭意努力します。

15. 創立150年史編纂に向けての基礎作業

【学習院未来計画 2021】11. 創立150年史編纂に向けての基礎作業（学習院アーカイブズ）

① 学習院アーカイブズ所蔵資料のデジタル化ならびにデータベース作成

学習院アーカイブズは開設以来、所蔵資料の保護と利用の便宜を図るためにデジタル化を進めてきました。戦前期の公文書や日記、戦後初期の事務文書など利用頻度が高く保存状態の悪い資料については、できるだけ速やかにデジタル化を実現していきます。デジタル化の推進によって、創立150年史編纂の基盤を整備するとともに、保存状態の悪い歴史的資料の永続的な保存・活用が期待できます。また資料の公開利用や創立150年史編纂事業にむけて、所蔵資料のデータベース構築への取組みも進めていきます。

② 創立150年史編纂に向けての体制の検討及び強化

創立150年史編纂の事業を実施するためには、院史資料の調査収集・整理を進めてきた学習院アーカイブズの機能強化が欠かせません。『学習院未来計画 2021』の期中から専門性を備えた人材を確保し育成することが必要です。2019年度は人材の登用および業務のあり方、並びに今後の事業の進め方について検討するとともに、学習院アーカイブズ職員の史資料取扱いに関する能力の向上を目指します。

16. 文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討

【学習院未来計画 2021】12. アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討

(学習院アーカイブズ)

本件は前中長期計画『学習院未来計画 28』からの課題ですが、『学習院未来計画 2021』において全院的な課題の一つとして本格的な検討が進められています。2019 年度は収蔵、展示およびこれに付随して必要なスペースや環境について関連部署との協議を進めるとともに、施設が整うまでの間に増加する移管文書および寄贈資料の暫定的な保管場所について検討します。

学習院未来計画2021/2019年度事業計画書 対照表

	学習院未来計画2021	2019(平成31)年度事業計画書
大学	1.教育支援の充実	1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進
	2.語学教育を含む教養教育の見直し・再編	2.ラーニング・サポート体制の充実
	3.入試改革	3.総合基礎科目見直しの検討
	4.国際化の一層の推進	4.入学者選抜制度の改革等
	5.学生生活支援の充実	5.世界展開力の強化とサーティフィケートプログラムの調査・検討
	6.教学マネジメントの強化	6.国際センター組織の強化
	7.研究活動の活性化	7.キャリア教育と就職活動支援の連携
	8.地域連携の拡充	8.奨学金の拡充と検証
	9.産学官連携の拡充	9.教学マネジメントの確立とIR機能の充実
	10. 高大接続改革の推進	10. 事務組織の見直し
	11. スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進	11.「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型く生命社会学>による アプローチ～」の推進
項目外	12.地域連携の拡充	
女子大学	1.カリキュラム編成の見直しと教育力の強化	13.産学官連携の推進
	2.国際化の一層の推進	14.学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化
	3.高大接続改革に伴う入試改革	1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進
	4.企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント(SD)の推進	15. 中長期計画の策定
	5.研究・教育環境の向上	1.内部質保証体制の強化
	6.外部に開かれた文化活動の充実	2.コース登録制度の運営初年度に向けたカリキュラムの一層の充実
中等科 高等科	1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂	3.リベラルアーツ教育に即した学修成果の総合的把握・可視化に向けた取組み
	2.院内各校との連携強化	4.国際化中期計画の着実な推進
	3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討	5.留学生の派遣と受入れに関する一層の強化
	4.国際化の一層の推進	6.エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化
	項目外	7.「海外」に触れる機会の更なる確保
女子 中・高等科	1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂	8.入試制度改革
	2.院内各校との連携強化	9.高等学校との交流連携に関する検討
	3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討	10.FD・SDの推進
	4.広報体制の一層の強化	11.分析力強化のための体制整備
	5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応	12.研究・教育環境の向上
初等科	1.学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂	13.外部に開かれた文化活動の充実
	2.国際化の一層の推進	1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討
	3.授業へのICT機器導入の検討	2.院内各校との連携強化
	4.クラス主管に加えての学年主管の設置	3.教職員の連携と協力体制の構築.業務の負担軽減
	5.院内各校との連携強化	4.国際化の一層の推進
	6.創立140周年の取り組み	5.施設の拡充
幼稚園	1.教育要領改訂を見据えた保育内容の充実	1.国際化の一層の推進
	2.研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上	2.授業へのICT機器導入の検討
	3.園内の自然環境の充実	3.学年主管設置の準備
	4.院内各校との連携強化	4.院内各校との連携強化
	項目外	5.入試広報の充実
本部等	1.キャンパスプランの策定と実施	1.従来の取り組みを活かした形での新教育要領への対応
	2.決裁・稟議等のルールの整理(総合企画部)	2.研究保育と園内外研修の実施
	3.広報の充実(総合企画部)	3.園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用
	4.事務業務システムの更新(総務部)	4.院内各校との交流
	5.災害対策の更なる強化(総務部)	5.入試広報の充実
	6.職員研修の更なる充実(人事部)	1.キャンパスプランの策定と実施
	7.働きやすい環境づくりの推進(人事部)	2.決裁・稟議等のルールの整理
	8.学習院未来計画2021の計画実現のための財源確保(財務部)	3.広報の充実
	9.各キャンパス構内の維持整備の促進(施設部)	6.事務業務システムの安定運用
	10.学習院未来計画2021推進募金の実施(募金部)(※)	7.災害発生時の地域との連携、危機管理体制の強化
	11.創立150年史編纂に向けての基礎作業(学習院アーカイブズ)	10.職員研修の更なる充実
	12.アーカイブズ文書・資料収集スペースと院史展示スペースの検討(学習院アーカイブズ)	11.働きやすい環境づくりの推進
	項目外	12.効率的な予算配分と財政基盤の安定化
	13.各キャンパス構内の維持整備の促進	
	14.「学習院未来計画2021」推進募金の更なる充実	
	15.創立150年史編纂に向けての基礎作業	
	16.文書・資料収集スペースと院史展示スペースの検討	
	4.三推進(国際化、情報化、一貫教育)事業の更なる促進のための検討	
	5.各学校の教育・研究環境の整備	
	8.創立150周年に向けた諸計画の始動	
	9.受動喫煙防止対策の実施	

※ 募金部は2018年4月に業務戦略渉外部に名称変更を行いました。